

広報

わかた

Public-Relations Wakasa

あけまして
おめでとう
ございます



トラフグ：フグの中では最高級品で冬が旬。
「ふく」と呼ぶ地方もある。
トラの置物：廃材を使ったエコな手作りの品。
素朴な木のぬくもりがある。
寅年に、たくさんの福がやってきますように。

1

2010
No. 57

神子産トラフグと熊川宿トラの置物



田中 裕人
Yuuto Tanaka



前田 健太
Kenta Maeda



百田 翔哉
Shouya Momota



山崎 衛悟
Eigo Yamazaki



森下 裕
Yutaka Morishita



松本 孝雄
Takao Matsumoto

新春



熊谷 和子

Kazuko Kumagai

西野 裕城

Hiroki Nishino

玉井 好子

Yoshiko Tamai

武笠 雄志郎

Yuushirou Takegasa

赤尾 麻紀子

Makiko Akao

ゆうトーク

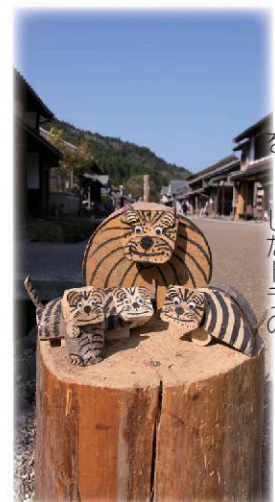
～みんなで創る みんなのまち～

ゆうトークとは

日頃の生活で感じていることや町の将来像について、住民の方と町長が意見交換する場です。

あなたの"you"と森下裕町長の"裕"を音読みしたものをかけて、「ゆうトーク」とネーミングしています。

世代間、団体間で共通する、あるいは異なるテーマや課題を確認したり、または発見し、話し合いを積み重ねることによって、行政からの押し付けではなく、わたしたちが真に望む住みやすい"まち"の実現につなげていこうとするものです。



廃材を利用したトラの置物（熊川宿）



若狭町長

Yutaka Morishita

森下 裕

(大鳥羽)

対話と実行

あけましておめでとうございます。
昨年5月に町長に就任して以来、早いもので8ヶ月がたちます。
住民のみなさまとともに手を携え、対話を重視したまちづくりの実現に全力を注ぎたいと思っております。



若狭町議会議員

Takao Matsumoto

松本 孝雄

(小川)

住民と一体で

新年あけましておめでとうございます。
町民のみなさまと議会・行政が一体となって、新たな未来を拓くまちづくりを目指していきたくと考えております。
合併後5年が過ぎようとしており、今までの経験をいかし飛躍の年となるよう願っています。



若狭女性ネットワーク会長

Kazuko Kumagai

熊谷 和子

(藤井)

若者が働く場を

9月に行われた住民意識調査では、8割ほどが若狭町は住みやすいと答え、年代が高いほどその比率が高い結果となりました。
これからは、福祉の充実に加え、若者の働く場や遊ぶところ、学ぶところが増え、町が活性化してほしいと思います。

町長

若者にはぜひ、若狭町に残ってほしいですね。
進学などで一時的に、町外へ出られるかもしれませんが、若狭町へ帰ってきて就職してほしいと願っています。
町内には多くの優良企業がありますが、その良さが十分知られていないと思います。
特に就職を控えた若い方に知っていただきたいですね。

議長

福祉については、今後も充実させていくべき分野だととらえています。
将来、住んでいて良かったと思えるまちづくりを進めていかなければならないと思います。



若狭東高校 3年

Yuuto Tanaka

田中 裕人

(市場)

福祉施設を増やして

作業療法士（病院や整形外科、老人保健施設など幅広い分野で、患者さんに対してリハビリを行う職種）になりたいと思っています。
将来、町内に福祉施設をもっと増やしたほうが良いと思います。



美方高校 3年

Shouya Momota

百田 翔哉

(藤井)

障がい者を教えた

教師になって、障がいを持つ子どもたちを教えたと思っています。
福祉施設のボランティアをした中で、障がい者や高齢者が集える福祉施設が充実した町にするのも良いと感じました。



若狭東高校 3年

Kenta Maeda

前田 健太

(天徳寺)

魅力ある町に

金融機関の仕事につきたいと思っています。
若狭町を訪れる人が少ないと感じます。原因は町に魅力が少なく、働く場所も少ないからだと思います。
都会の人が、訪れてみたいと思う場所を作ったりして、魅力ある町になってほしいと思います。



わかさ東商工会青年部理事

Yuushirou Takegasa

武笠雄志郎

(三方)

魅力ある職場づくり

町内には働く場が少なく、3分の2くらいは町外に働きに出て、若者も少ないと感じます。
地元に戻りたいと思っても、働く場所がないという声も聞きます。
魅力ある職場づくりが必要だと思いますし、その責任も感じています。



若狭町母親クラブ会長

Makiko Akao
赤尾麻紀子
(別庄)

一度、都会へ出ると…

都会へ出ると田舎には帰りたくないと思う人が多いと思います。働き口があるというだけでなく、都会そのものの魅力もあるようです。また、福祉関係の仕事をしている中で、住民の方から、老後の不安をよく耳にします。



わかさ東商工会青年部理事

Hiroki Nishino
西野 裕城
(グリーンハイツ)

やっぱり若狭町がいい

青年部は35歳以上が半数を占め、あと4、5年で半減する状況で、後継者がいないのが近年の課題です。私は、愛知県に5年ほど住んでいましたが、やはり若狭町が好きですね。



若狭町青年会会長

Eigo Yamazaki
山崎 衛悟
(脇袋)

子どもが楽しんでくれるものを

青年会は今、約30人で活動しています。ボランティア活動を中心にしていて、10月には子どもたちが集うハロウィンまつりを開催しました。子どもが楽しみに来てくれる交流イベントを続けていきたいと思っています。



ふれあいサロン(おいでな会)

Yoshiko Tamai
玉井 好子
(三宅)

サロンで助け合い、支えあい仲間づくりを

若い人が都会へ出て、高齢者だけの世帯が増えていると感じます。高齢者の方はサロンを楽しみにしておられるようで、利用していただく中で、仲間意識も芽生え、今後、老人世帯だけになっても地域で助け合い、支えあって生活できるような気がします。↗

また、快速鉄道ができれば、京都・大阪が近くなり、若狭町からでも通勤・通学ができるようになり、若者が町に残ってくれるのではないのでしょうか。

町長

先日、ある地区のサロンにお邪魔したとき、みなさんの大変元気な姿を拝見しました。共通の目的があってみんなが顔を合わせ、話し合うことは、良いことだと感じました。

わたしたち一人ひとりができることは

赤尾

自然環境に恵まれた美しい若狭町を次の世代にのこしていくために、個人レベルでできることとして、ゴミの分別やりサイクル商品利用、エコバッグの使用を心がけています。

武笠

新たな企業の誘致に頼るだけでなく、今ある会社が若者にとって働きたくなるような魅力ある職場づくりをしなくてはいけないと思います。

西野

何らかのアクションを起こして、将来、子どもがこのまちいいなと思うようなまちづくりを心がけていきたいですね。

玉井

少子高齢化を迎えていく中、個人的には、元気で暮らし、子どもの世代に負担がかからないようにしたいですね。

百田

大学を出たら、若狭町に帰ってくるのが、まちのためにできることです。

前田

若狭町に帰ってくるのと、県外の大学へ行ったら若狭町をPRすることです。

田中

県外の大学へ進学しますが、帰ってきて町に貢献したいです。

熊谷

これまでは、町にやってもらうのが当たり前で

した。財政困難な状況の中、これからは自分たちでできることは自ら行動し、自分たちで取り組むことが大切だと思います。

議長

財政状況が厳しい中、自分たちや集落のことは自分たちでやる、あるいは、ボランティアを実践するまちづくりが期待されています。

町長

健康で長生きすることが望まれています。そのために福祉と医療の充実が大きなテーマです。また、交流人口をいかに増やすかだと思います。若狭町は、海、湖、山など自然の宝庫で日本の原風景の縮図です。人が優しくもてなしの心が根付いています。県外に出たらこれをぜひPRしてほしいと思います。

こんなまちになってほしい

田中

県外から若者が訪れる町にするため、若者の興味を引くイベントの開催がよいと思います。

前田

多くの人に若狭町を知ってもらい来てもらい町民とふれあう場がある町が理想です。

百田

仕事がしやすく、若者が戻りたくなるようなまちづくりを期待します。

山崎

青年会でも県外から来てもらえるようなイベントを展開していきたいです。

熊谷

若者たちが働ける工場などができてほしいですが、自慢の自然環境は壊してほしくないですね。

玉井

最近、いろんな事件が起きていますが、子どもや女性が安心して暮らせるまちが望まれます。

西野

人と人があたたかい気持ちでつながりあえるまちづくりを進めてほしいですね。



若者の活気にあふれ、
いつまでも、快適に、
安心して暮らせる…
そんなまちの実現が、
望まれています。

福祉と文化の祭典

ハート&アート フェスタ2009

Heart & Art Festa 2009

11月13日から15日にかけて、福祉と文化の祭典「ハート&アートフェスタ2009」がパレオ若狭を中心に開催されました。

障がい者の文化芸術活動にふれたり、生きがいや健康づくりをすすめるイベントで今年で3回目。

来場者は、芸術を楽しみながら、福祉、健康への理解を深めていました。



障がいのある人が自分の気持ちをえがいた作品展

落語とクラシックコンサート



演奏会にも活動を
ひろげる落語家

共演

&
落語好きの音楽家

桂まん我
(理屈抜きに楽しくおもしろい落語を披露)

クインテット・アッサンブラージュ
(行政チャンネル BGM「ビッグステージ若狭」
の演奏でおなじみの合奏グループ)



おたのしみマーケット



手作りの品や地元特産品が並びました。
環境にやさしい小学生手作りのマイバッグも登場しました。

木でアート！ドーム作ろう



近くの山から切り出した雑木を麻ひもなどで組み上げました。
トラス構造になっているので、子どもたちが乗っても大丈夫。

似顔絵イラストコーナー



プロのアーティストがあなたの似顔絵を色紙に描きました。
親子連れなどでにぎわい、順番待ちが出るほど。



"おいしい秋"のおはなし会
「おいしそう」な食べ物の絵本や紙芝居の読み聞かせ。

このほか、陶芸体験教室や「カラオケ歌おう」と題した音楽スタジオ無料開放、健康チェックが実施されました。

また、パンづくりやアクセサリづくりで障がい者と小学生が交流するふれ愛交流まつりが開かれたほか、認知症老人と女性介護士のふれあいを通し人の生死を描いた映画「^{もが}殞の森」が上映されました。

認知症ケアからはじめる まちづくりフォーラムわかさ

笑顔とやさしい気持ちで互いに支え合い、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して、11月14日、パレア若狭で、認知症予防講座や講演会、認知症一行詩入賞者表彰式が行われました。

福祉講演会



西川ヘレンさん

タレント西川きよしの妻、三人の子の母として、さらに、実母と義父母の多重介護の経験から「大家族～支え愛、見守り愛、励まし愛～」と題して講演。「できる限りのやさしい気持ちをさしむけて世話する」「たくさん話しかけてコミュニケーションをとることが大事」と笑いを交えて熱く語りました。

認知症一行詩全国コンクール



一般の部
〈最優秀賞〉

原 稔さん
(若狭町梅ヶ原)

「受賞におどろいている」
「この詩が全国の介護者の励みになれば幸いです」

認知症一行詩全国コンクール入賞作品 (佳作以上) (敬称略)

小学生の部			中学生の部			一般の部			
佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	最優秀賞	
もうじっちゃん!! またちごとのでいつきやし ほんでもまこの名前はみな正かいもしも 忘れてしまった時のために おじいちゃんの好きな食べもの まごがたくんメモつくね もうその場所にはない家に帰りたいと言っ そこにはいろんな思ひ出があるんだね おっきいばあちゃん 僕はいくつになつたら 小学生にしてみらえるの?	おじいちゃん二人でお留守番 ドキドキするけどワクワクする 今日探険に行くのかな	ひいじいちゃん 会つたらいつも「まあちゃんか?」それはぼちゃんです。ばあちゃんのこと 大好きなんだね	おばあちゃん 好きな歌を口ずさむそのフレーズ 私も覚えちゃったよ 何回きかれても しつかり答える母がいる 「うるさい」「静かにして」 口の悪い孫でごめんね 本当はすごく感謝しています 「自分の名前覚えてる?」 そんなひどいこと きくんじやなかった	ほめられたとぬり絵を見せるおばあちゃん デイサービスでも 優等生目指してる	朝ごはん食べてまたごはん 昼ごはん食べてまたごはん だじょうぶ 少し減らしといたから	「おなかすいた おなかすいた」が口ぐせのばあちゃん ぼくと同じ育ちざかりだね	カボチヤ煮たら持つていけと母が言う 頭の中で作つた料理 今日もちそうさま 箸筒の着物を大風呂敷へ母の日課 旭川へ行くという駆け落ちした所 手をつなぐ姉の寝息は安らぎで このまま朝が来なければいい 戦死した兄の名前を最後まで覚えていた母さん: 介護する私の顔さえ忘れたのに:	長い介護の月日には 鬼の面も付きますよ それでも 義母は笑顔をくれる	デイサービス 朝シャンしていくうちのバーチャン
若狭町熊川小二年 大谷一生	若狭町三宅小五年 田中稚子	徳島県助任小五年 戸田絢子	若狭町三方中三年 中西由佳	若狭町三方中三年 澤村神奈	福岡県忠永中一年 大林ひろと	宮城県仙台市 長谷川登美	若狭町 尾崎登志子	島根県安来市 角森みゆき	
若狭町三宅小三年 佐々木眞子	若狭町三方小四年 増井美玲	島根県社日小五年 角森多久哉	若狭町三方中二年 竹村辰之輔	北海道常盤中三年 高橋雄一郎	若狭町上中一年 村上真由	東京都清瀬市 折井奏女	若狭町 尾崎登志子	若狭町 原稔	
			埼玉県玉川中二年 野原絵梨香			神奈川県横須賀市 松浦美代子			
						富山県高岡市 石黒登子			

まちの話題

WAKASA TOWN NEWS

プロの演奏を間近で！

学校訪問コンサート (11/12)

室内合奏の名手「クインテット・アッサンブラージュ」の5人の皆さんが、みそみ小学校で学校訪問コンサートを行いました。

芸術鑑賞といえば、音楽堂などの会場に来てもらうスタイルが主ですが、今回は学校に出向いて、質の高い音楽を間近に感じてもらうと町が企画。

児童たちはプロが奏でる音色にうっとり聞き入り、指揮者体験やバイオリン体験を通して本物の音楽にふれました。

児童は「テレビでしか見たことのなかったプロの音楽を聴けてよかった」「せまってくるバイオリンの迫力にびっくりした」と話していました。

 ホームページに動画



▲間近で演奏に聞き入る児童

 ホームページに動画



▲リレーマラソンのスタート

古墳の里を疾走！

第1回古墳の里リレーマラソン (11/15)

脇袋古墳群を周回して、42.195kmをタスキでつなぐリレーマラソンが開催されました。

このリレーマラソンは、瓜生地区の自主学級長、体育協会などの有志でつくる実行委員会が脇袋古墳を広く知ってもらおうと同時に、住民の健康づくりに役立てようと初めて企画。

穏やかな秋晴れのもと、小学生から一般まで1チーム10～20人編成で、町内外から10チームが参加し、古代から続く歴史の路を駆け抜けました。

 ホームページに動画



▲上体起こしを測定する参加者

わたしたちの元気づくり

老人クラブ体力測定 (11/18)

いつまでも元気で活躍していくため、自らの体力の度合いを確認する「老人クラブ体力測定」が三方B&G海洋センターで行われました。

この体力測定は、握力、上体起こし、10m障害物歩行などの6種目で、筋力、柔軟性、バランス能力を測るもの。測定結果を六角形のレーダーグラフに表示し、自分の体力バランスを確認しました。

参加者は、「普段あまり運動していないので、歩行と前屈が苦手」「これを機にストレッチ体操を心がけたい」と話していました。